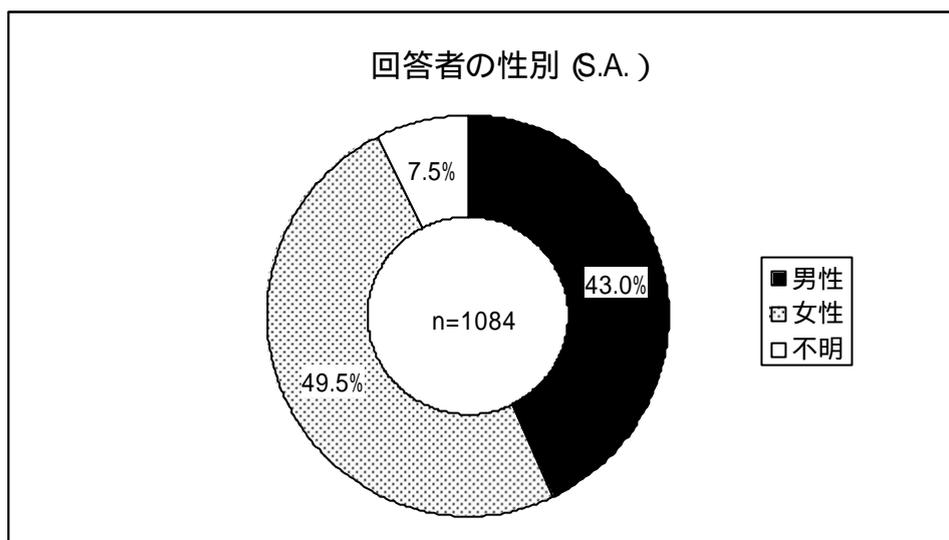


第2 市民意識調査の結果

1 回答者の属性

(1) 性別

男性が43.0%、女性が49.5%と若干女性の方が多い。不明を除いた男女比は、男性1：女性1.15である。

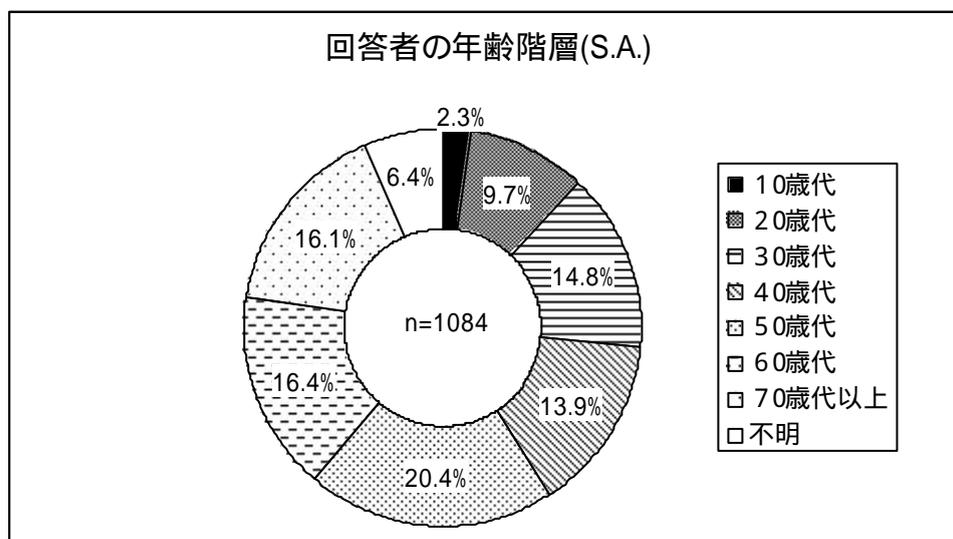


注) S.A.とは：シングルアンサーの略で、選択肢の中から1つだけ回答を求めたもの(以下同)

nとは：有効回答数のこと(以下同)

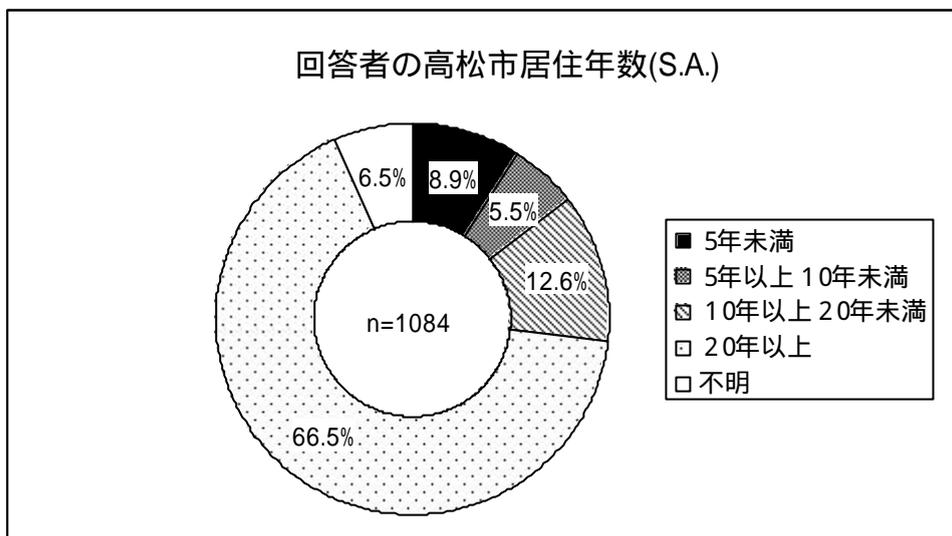
(2) 年齢階層

50歳代が20.4%と最も多く、以下、60歳代、70歳代以上、30歳代、40歳代と続き、20歳代と10歳代は少ない。



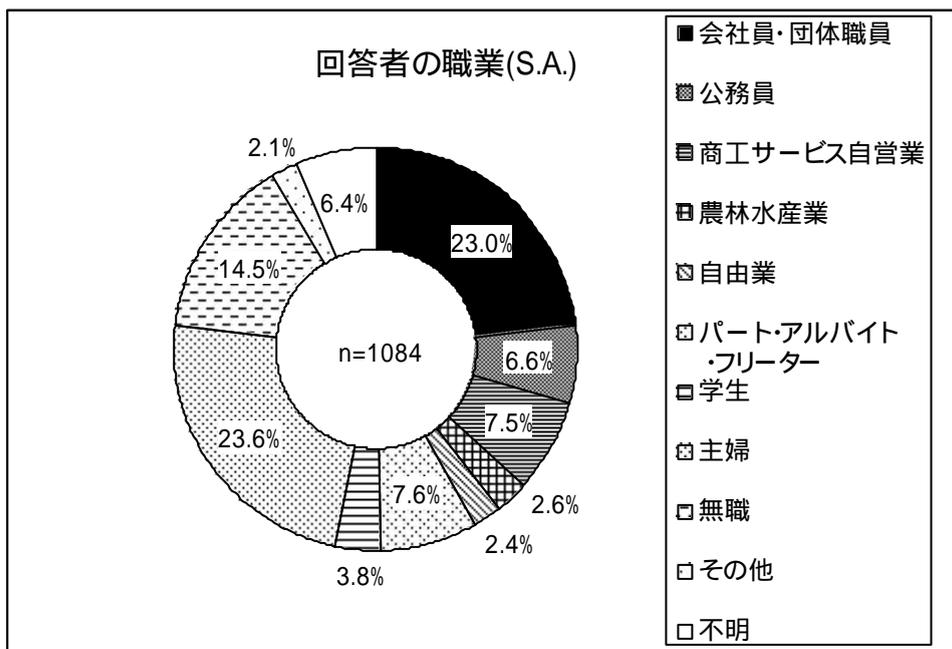
(3) 高松市への居住年数

「20年以上」が66.5%と圧倒的に多く、「10年以上20年未満」(12.6%)がこれに次ぐ。「5年未満」(8.9%)、「5年以上10年未満」(5.5%)は少ない。



(4) 職業

主婦(23.6%)と会社員・団体職員(23.0%)がそれぞれ全体の1/4近くを占め、以下、無職(14.5%)、パート・アルバイト・フリーター(7.6%)、商工サービス自営業(7.5%)、公務員(6.6%)の順となっている。



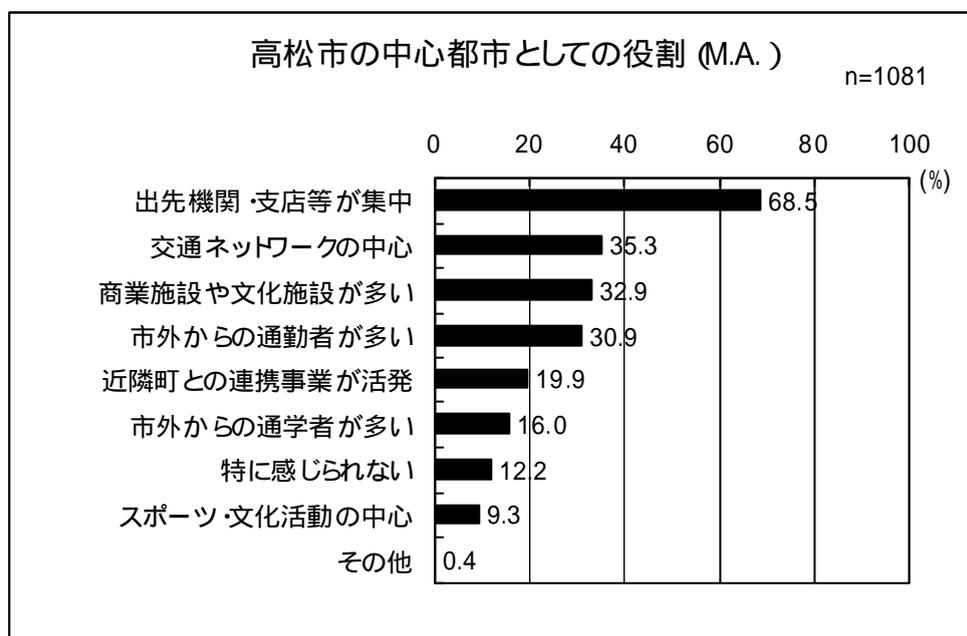
2 設問別回答結果

高松市の中心都市としての役割 (M.A.)

(1) 全体

「出先機関・支店等が多く集中している」を挙げる回答が最も多く、68.5%を占める。次いで、「交通ネットワークの中心となっている」(35.3%)、「商業施設や文化施設が多い」(32.9%)、「市外からの通勤者が多い」(30.9%)が続いている。このほかでは、「近隣町との連携事業が活発である」(19.9%)が5位を占めている。

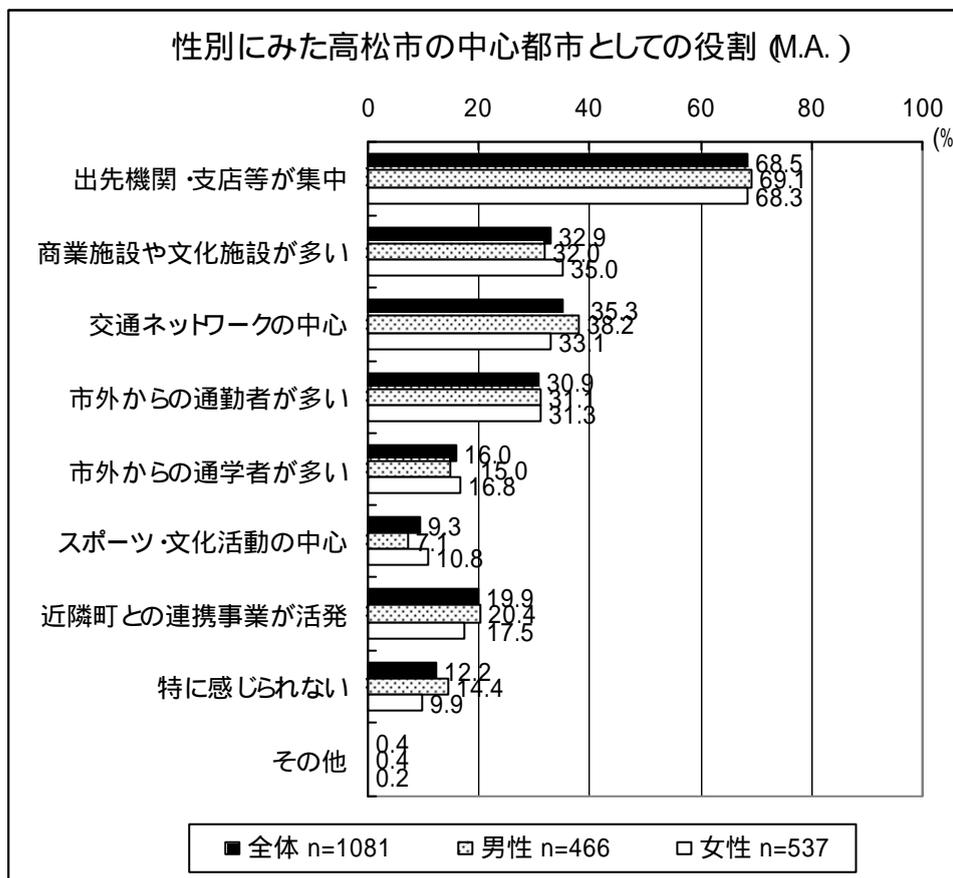
なお、中心都市としての役割を「特に感じられない」とする回答は12.2%と少ない。



注) M.A.とは：マルチアンサーの略で、選択肢の中から複数の回答を求めたもの(以下同)。

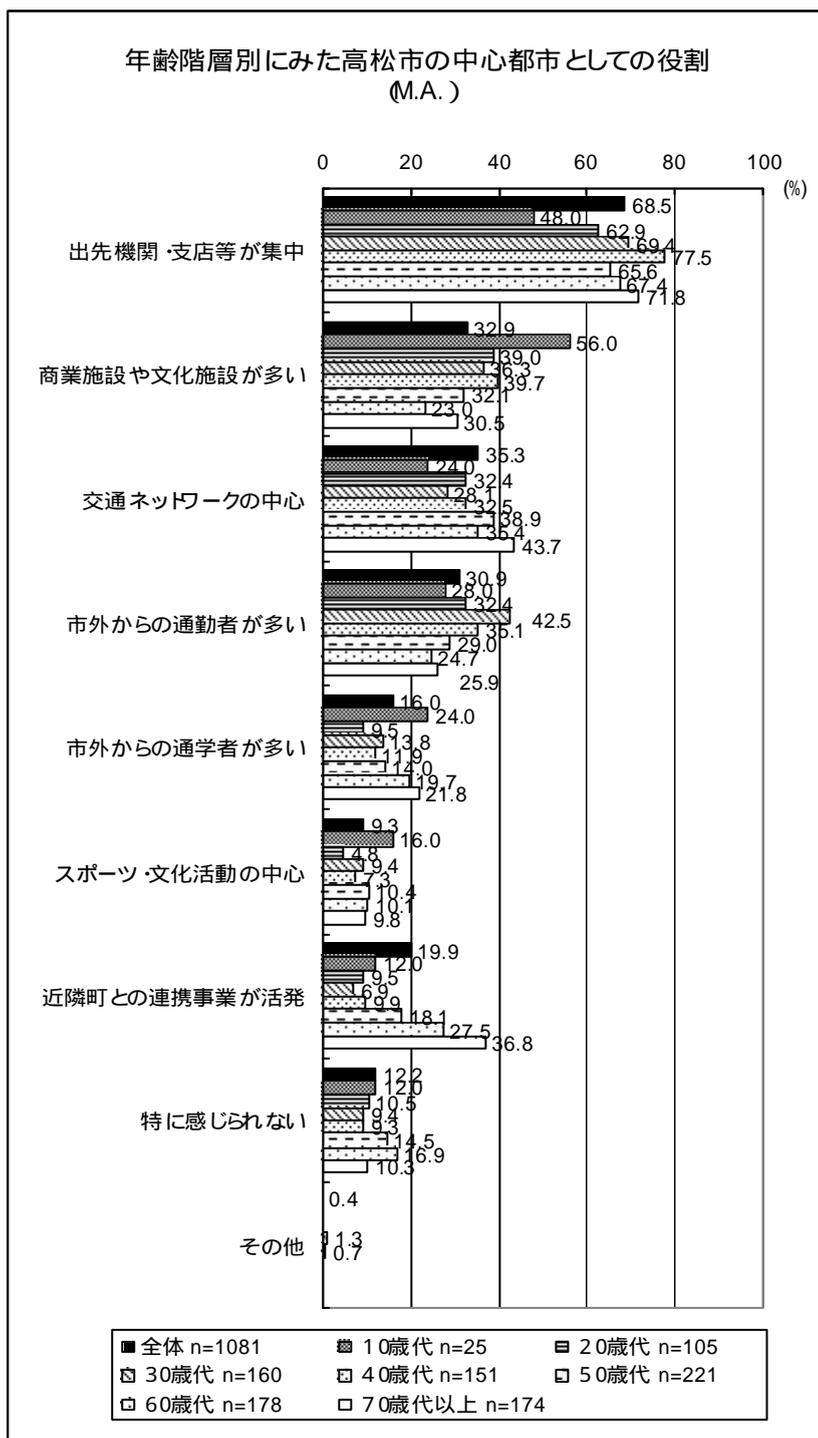
(2) 性別

男性と女性の回答率の差が5ポイント以上あるのは、「交通ネットワークの中心となっている」(男性 38.2%、女性 33.1%) だけであり、性別での回答結果の差は小さい。



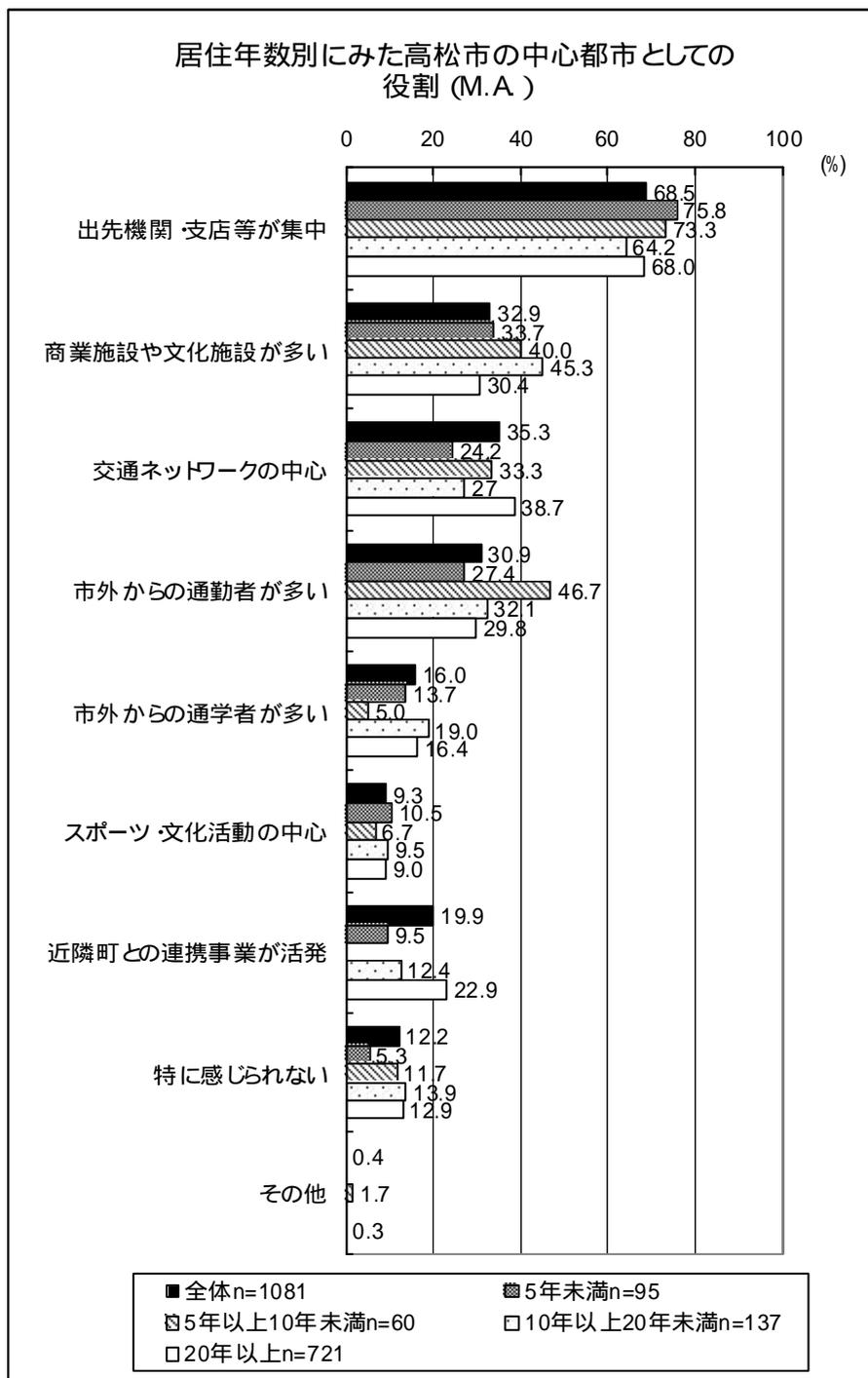
(3) 年齢階層別

20歳代と50歳代は全体の回答結果とほぼ一致しているが、他の年齢階層では、10歳代では「商業施設や文化施設が多い」、30歳代では「市外からの通勤者が多い」、40歳代では「出先機関・支店等が集中」、60歳代と70歳代以上では「近隣町との連携事業が活発」の回答率がそれぞれ相対的に高く、年齢階層ごとに特徴を示している。



(4) 居住年数別

サンプル数が多いため、20年以上の回答者の回答結果は全体結果と重なり合うものとなっているが、5年未満では「出先機関・支店等が集中」、5年以上10年未満では「市外からの通勤者が多い」、10年以上20年未満では「商業施設や文化施設が多い」の回答率が相対的に高いなど、居住年数の長さによって、高松市の中心都市としての役割のとらえ方に若干の差がみられる。



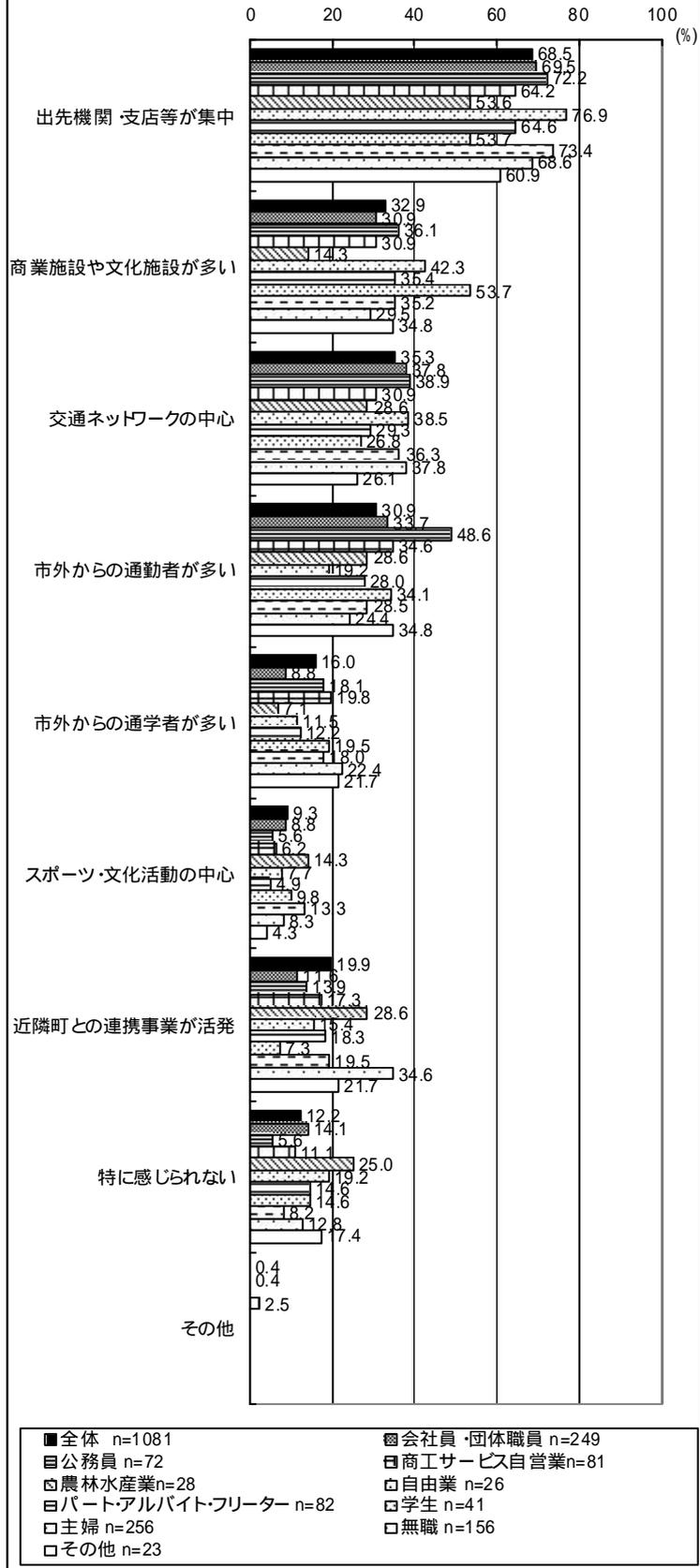
(5) 職業別

サンプル数が多い主婦では、全体結果とほぼ合致しており、同じくサンプル数が多い会社員・団体職員も同様の傾向にある。

そのほかでは、パート・アルバイト・フリーター、商工サービス自営業は、全体傾向との差が小さいが、無職の場合は「近隣町との連携事業が活発」、公務員の場合は「市外からの通勤者が多い」、学生の場合は「商業施設や文化施設が多い」の回答率が、それぞれ相対的に高い。

また、比較的、市の周辺部に居住していることもあってか、農林水産業の場合、「商業施設や文化施設が多い」、「出先機関・支店等が集中」、「交通ネットワークの中心となっている」などの回答率が全体傾向と比べてかなり低く、「近隣町との連携事業が活発」や「特に感じられない」の回答率が相対的に高くなっている。

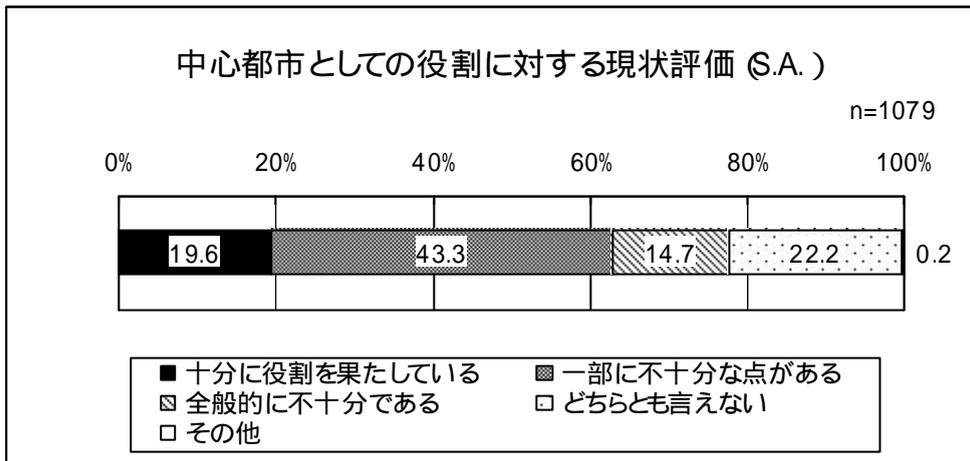
職業別にみた高松市の中心都市としての役割 (M.A.)



中心都市としての役割に対する現状評価 (S.A.)

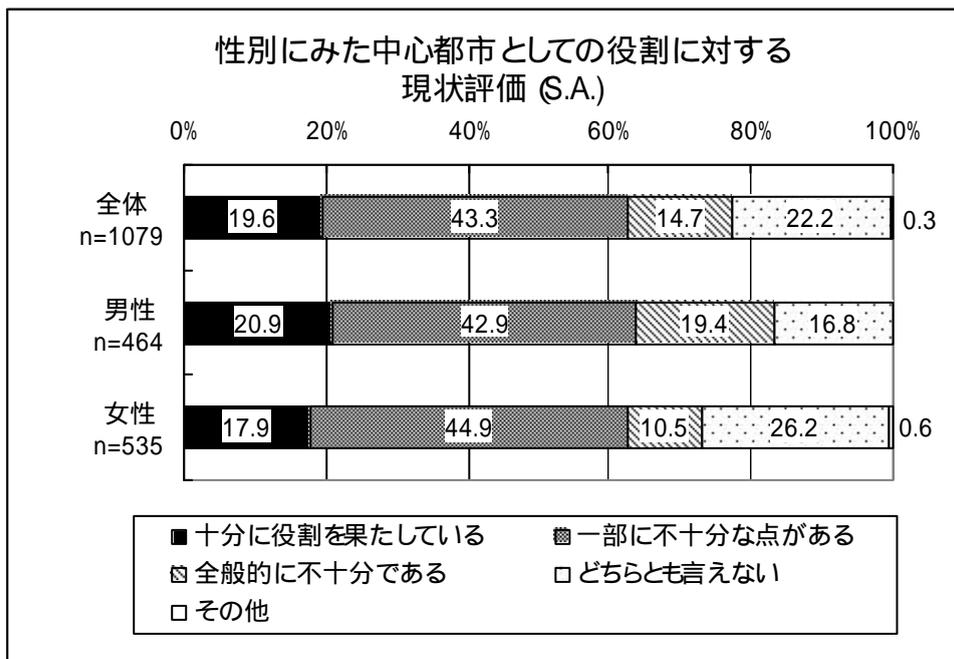
(1) 全体

「十分に役割を果たしている」とする回答は20%以下(19.6%)と少なく、「一部に不十分な点がある」が43.3%と最も回答率が高い。「全般的に不十分である」(14.7%)を加えた「不十分」との評価は58.0%と高いものがあり、市民による現状の中心都市としての役割に対する満足度は、必ずしも高いものとはいえない。



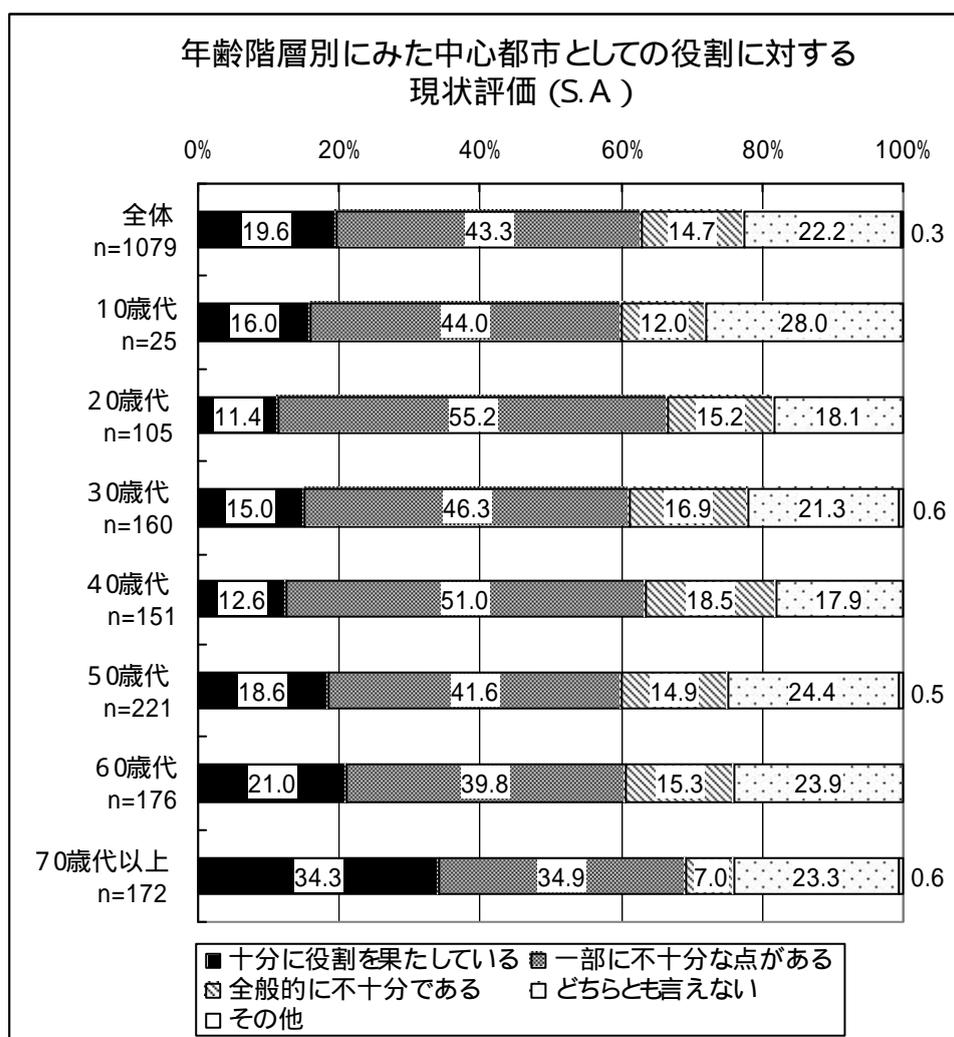
(2) 性別

性別による差はあまり大きくはないが、男性に比べ、女性では「どちらとも言えない」の回答率が高く、「十分に役割を果たしている」、「全般的に不十分である」とも男性の回答率を下回っていることが特徴である。



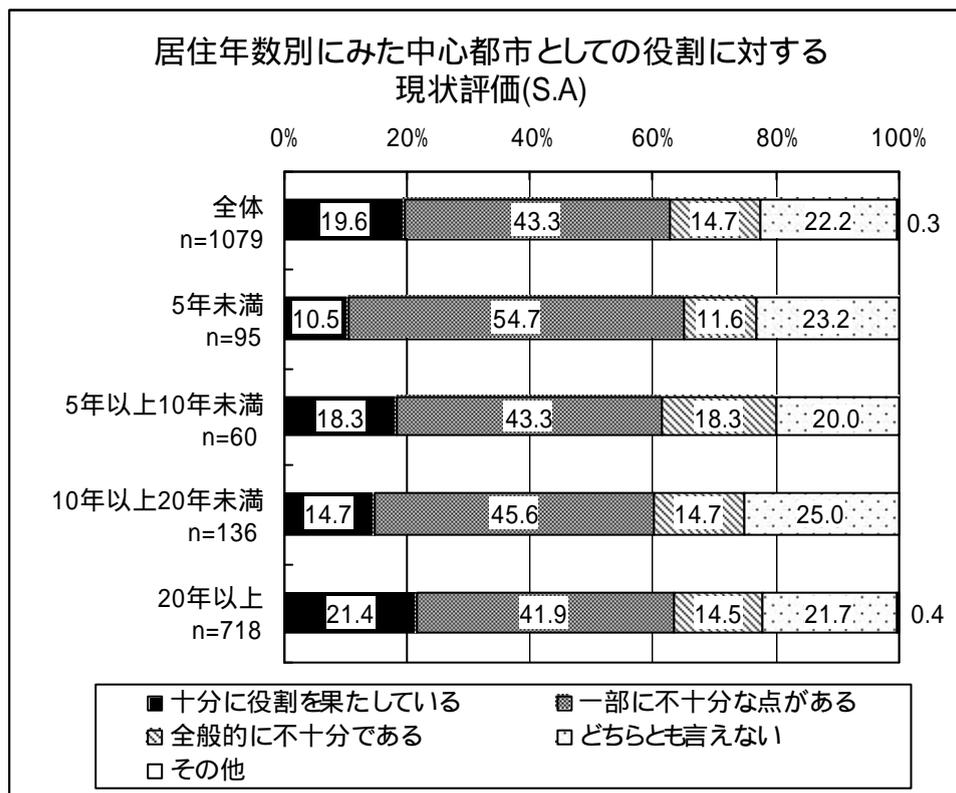
(3) 年齢階層別

各年齢階層とも「一部に不十分な点がある」の回答率が1位を占めているが、60歳代、70歳代以上では「十分に役割を果たしている」とする評価が相対的に高い。また、「全般的に不十分である」との評価は、40歳代、30歳代を中心に全体結果よりも高くなっている。



(4) 居住年数別

いずれも「一部に不十分な点がある」との評価が最も多い点では共通しているが、「十分に役割を果たしている」との評価は20年以上居住している回答者で相対的に高く、「全般的に不十分である」との評価は5年以上10年未満の居住者で相対的に高い。



(5) 職業別

職業別で評価に大きな差があることが特徴である。

「十分に役割を果たしている」とする評価は、自由業、農林水産業、無職で高く、特に前二者では「一部に不十分な点がある」を上回る回答率を得ている。また、「一部に不十分な点がある」との評価が特に高いのは、公務員、その他であり、「全般的に不十分である」との評価が相対的に高いのは、自由業、商工サービス自営業、学生などである。

